



氏名 小林 孝行 (こばやし たかゆき) 1946年生
所属 文学部・行動科学化・教授
TEL 086-251-8468 (ダイヤルイン)
FAX 086-251-8468
E-mail kobayast@cc.okayama-u.ac.jp
H P <http://www.okayama-u.ac.jp/>

ひとこと：最近の関心テーマとしては、日本における国際化とエスニック問題、そして近代韓国社会および現代韓国社会の文化や家族などに関する比較社会学的研究です。

また、日本の社会については市町村などの社会調査を通して、高齢化などの問題を明らかにするなど、地域との関わりを持つことに関心があります。

1. エスニシティの社会学的研究

今日、世界的な問題となっているエスニシティについて、その歴史的過程を踏まえつつ、社会学的研究を行っています。併せて、日本における国際化とエスニック問題についても検討しています。



韓国の「道徳」の教科書表紙 (小学校3年)

2. アジア諸国との関係からみた日本の近代化

日本の近代化をとらえる場合、単に西欧諸国ばかりでなく、アジア諸国との関係を考える必要があります。アジアの近代化という枠組みを設定し、特に人口移動に注目して検討しています。

3. 現代韓国社会文化論

現代韓国社会は、近代化、産業化、都市化が急速に進むなかで、様々な社会問題も出現するなど、大きな社会変動が起こっています。そのようななかで、日常における生活や文化なども多様な変化が生じるとともに、日本との関係も変化が始まっています。



「日本CF ジウ天下」という見出しがついた
韓国の日刊スポーツ新聞 (2004.9.4)

キーワード：社会学、エスニシティ、コリアの近代化、近代の人口移動、比較社会学

社会学・・・社会学とは、一言でいうと社会（近代市民社会）とはなにかという問いに基づいて、社会を対象とし科学を方法とする学問であるといえる。したがって、我々の社会の中で生起する様々な社会現象をどのようなものであれ、「社会学的」関心をもって認識される限り、社会学であるということを否定することはむづかしい。実際に、農村社会学、都市社会学、家族社会学、産業社会学、政治社会学、教育社会学、文化社会学そして性の社会学などがその一例であり、〇〇社会学というのは数え上げればきりが無いほどである。

エスニシティ・・・これまで、近代国家の出現とともに、伝統的な民族集団は一つの近代的な国民へと統合されると考えられていた。しかし、近年、世界各地で様々な形で、エスニック・リバイバルとでもいえるような民族紛争が出現している。そのようななかで、これらの問題を明らかにするために、文化的、歴史的的同質性、共有性をもち従来民族、種族など様々な概念で捉えられ、またある意味では現代でも新たに形成されている民族集団を、エスニシティという概念で再定義したものである。このエスニシティの問題は、日本社会も決して無関係ではない。

コリアの近代化・・・一言でいって、近代化とは、人間中心主義原理に基づいて、民主化、産業化する過程をいい、市民革命、産業革命をへた西欧社会において最初に出現したという。非西欧社会の近代化は多くの場合、西欧列強によるナショナリズム思想の基づいた植民地支配からの民族独立という過程を経ている。コリア（ここでは韓国・朝鮮の総称として用いる）の自立的な近代化は、日本の植民地支配によって阻害され、それに対して、一旦は解放されたものの、戦後は米ソの対立に影響を受け、民族分断状況におかれてる。

近代の人口移動・・・近代国家の成立は、領土を確定しそこに暮らすほとんどすべての人々を新たな国民として統合した。ところで、近代化にともなう大きな社会変動は、人口の大きな階層的移動、地理的移動をもたらした。その人口の地理移動は国内に留まらず、移民、植民、難民などは国境を越えて進んだ。現代世界では、グローバル化にともない、人口の国際移動はいつそう進行し、その形態も多様になっている。

比較社会学・・・一般に社会学は近代国家の枠組を一つの全体社会として、その枠の中で分析する傾向にあるが、日本など非西欧諸国の社会学においては、近代化を検討する上で西欧社会をモデルとし、それと比較することによって近代化の度合いが計られてきた。近年のグローバリゼーションの進展する世界では、改めて国際社会との関係のなかで、個別社会を再認識することが必要となっている。特に日本社会の分析において、西欧社会との比較だけではなく、アジア社会との比較も極めて重要である。